みやき町立中原中学校　学校だより　No.9

櫨紅葉（はぜもみじ）

【学校教育目標】
ふるさと中原を担う
志をもった生徒の育成
～自律と協働の学校づくりを通して～

発行：令和４年１０月２７日（木）　（文責）　校長　田 中　克 三

※しばらく発行が滞り、申し訳ございませんでした。

Remember　3 年修学旅行

～ 10.17 いのち･生き方を考える日 ～

10 月 17 日の「いのち・生き方を考える日」はオンラインで実施し、3 年生の代表が 9 月末の修学旅行の際に行った「平和学習」・「震災学習」で学んだことについて、スライド資料を交えながら群読形式で発表しました。

修学旅行最初の見学地であった「大刀洗平和祈念館」では、当時付近には東洋一を誇った大刀洗飛行場があり、特攻隊の中継基地として、多くの若き特攻隊員たちの出撃を見送った場所であったこと、昭和 20 年（1945 年）3 月、米軍の大空襲により壊滅的な被害を受け、民間人を含む、多くの尊い命が失われたことなどを語り部の方のお話や展示物などで知り、命の大切さと平和の尊さをあらためて学ぶことができました。

【館内に展示されたゼロ戦】

【心に迫る語り部の方のお話】

【遺品の手紙を真剣に読む生徒】

【生徒の発表から】

自分と同じぐらいの年齢の人が戦争や国のために命を捧げていたことに驚き、そう思わせるその当時の風潮はとてもあってはならないものだと思った。今、こうして友だちや家族と過ごせるのは有難いことだと改めて感じた。

当時の青年が「特攻」にあこがれを抱いていたと知ったが、なぜそういう気持ちが生まれたのか私には想像ができない。戦死した方の気持ちを考えて、今、自分が何をしていけばよいか少しずつ気付いていきたい。

また、熊本での震災学習では、熊本城や阿蘇大橋、旧東海大学震災遺構を訪れ、現地ガイドの方から当時の状況やこの６年間の復興の道のりの中で、被災された方々がどのような思いで歩んでこられたかについて聞き、災害を身近なものとして考えるきっかけとなりました。

【未だに崩れたままの石垣】

【崩落した旧阿蘇大橋の前で学習】

【震災当時の姿を残す旧東海大学震災遺構】

【生徒の発表から】

自分の想像よりはるかに大きな事が同じ九州で起きていて信じられなかった。石垣や橋をもとに戻そうとする現代の人々のすごさに感心した。

地震から 6 年経った今でも完全には修復されていない場所があり、被害の大きさをあらためて感じた。日頃の備えや近所の方との関係等が人の命を守るのに大切な事だと感じた。

不屈の強さと優しさと
～『古賀稔彦物語』を読んで～

「平成の三四郎」と呼ばれ、バルセロナオリンピック柔道71kg級で金メダルを獲得した故：古賀稔彦さんの生涯を描いたマンガをみやき町が制作、この度、町内の全小中学生に配付されました。

本校では、10月24日から26日までの「朝読書」の時間を活用し、生徒に読んでもらいました。古賀稔彦さんが金メダルを獲った1992年には当然生まれてもいない生徒たちですが、今回のマンガを通して、みやき町で幼少期を過ごされていた古賀さんの輝かしい功績にあらためて触れることができたようです。

古賀さんの何事もあきらめない不屈の強さと誰にでも優しく接していく生き様は、学ぶべき点が多く、いつまでも「**ふるさとみやき町の誇り**」です。

【生徒の感想から】

古賀さんの生き様からどんなに絶望的でも、少しでも可能性があるなら挑戦してみないと分からないということを学んだ。そして、その可能性を引き出すためには、日々の努力を大事にしていくことだと思った。

夢や目標をもつことで「高み」へ行けるということを実感した。強くなりたいのなら稔彦さんのようにまずは弱い自分のレベルを知ること、そして、結果だけでなく、努力する過程が大事だということを学んだ。

自分の好きなこと、やりたいことを続けたいという気持ちはその人を強くするし、そんな続けたいと思うものに出会えることが素晴らしいと思った。私も自分が夢中になれるものを見つけて、上へ上へと成長していきたい。

男女ともに県大会出場！
～10/6 地区中体連駅伝大会～

１０月６日（木）、三養基・神埼地区の中体連駅伝大会が吉野ヶ里歴史公園内コースで行われました。中原中チームは男女共に三養基地区で２位となり、11月11日（金）に開催される県大会への出場を決めました。また、男子の部では、各校のエースが集う「花の１区」で３年生の鶴田虎汰朗さんが激戦を制し、見事に**区間賞を獲得**しました。

【ラストスパート！１区区間賞を決めた瞬間】

折々の魚たち⑤ サンマ

食欲の秋。秋が旬の魚と言えば、秋鮭、戻りカツオなどいろいろありますが、やはりサンマが最初に思い浮かびます。漢字では「秋刀魚」と書き、秋に獲れる刀のような魚というのがその理由と言われています。魚の「旬」を語るとき、「一番美味しい時期」ということもありますが、「その魚がよく獲れる時期」を指すこともあります。しかし、サンマの場合、近年、漁獲量が激減していることが問題となっており、**地球温暖化の影響が不漁の一因**とみられています。

現在、本校ではSDGsをキーワードに生徒会活動や文化発表会の取組が行われていますが、もう一度安くて脂の乗ったサンマを日本の食卓に取り戻すために、これもSDGsと自分に言い聞かせながら、こまめに節電、プラスチックの使い捨てを減らすなど、できることから始めていきたいと思います。